

婦人と子ども



第五歳を迎ふ。

何かと申す中に、明治卅七年は過ぎ去つて、こゝに卅八年の新しい年を迎へました。讀者諸君にも、定めし恙なくこの新年を迎へられた事と遙に、御慶詞を申し上げます。

さて、顧みれば、本誌の始めて呱呱の聲を上げて、此世に生れ出たのは、實に明治卅四年一月の今日でありました、生れ出つるや否や大方の同情を博し得て之が育養の任に當つた編輯人の力は、至つて微なりしにも係はらず、駸々として發達し、巻を重ねること、四、號を重ねること四十八、遂に、第五歳に達して第五卷第一號を發行するに至つたのは、全く讀者諸君の同情の致す所だと、切に感謝する次第

でゆります。

もとより、本會は、尙未だ世間で聞く所の大きな會と申す程でもなく、從つて、本誌發行につきは財政上の困難も少くありませんから、本誌の体裁等に於ても、他の商業的新聞雑誌の様に、縮羅、錦繡の美を飾りて世と相見ゆるといふ譯にも行きませんで、此點は深く耻づる所でありますが、然し、淺學微力ながらも私共の盡瘁と諸君の熱心なる御同情とは、寧ろ此外觀の美など申す事を超絶して、終始一貫した着實な主義を以て、我が可憐なる幼兒の保育と、家庭の教育とに貢献した所の功績は、強ち大きくないではなからうと信じます。地方の讀者諸姉からも此點につきては時々、溢れる許りの同情を以て賛同せらるゝことがありまして、實に感謝の他はござりません。

今や、我國は、昨年からかけて、未曾有の大發展をなすべき時機に際會しましたことでありまして、本年の一月は、たゞ毎年の同じ様な形式的のみ目出度を申す許りではござりません。日本帝國の大隆運を見るべき年の始として、眞底から、お祝い申すべき目出たいな正月であります。我婦人と子どもも、幸に諸君の深き御同情に由つて、此好正月を迎へることが出来ましたのは、まことに喜ばしい次第でござります。我國が、世界的の大發展をするにつけても、ますます注意しなければならぬのは、どうか、此大發展をたい、現在にのみ留めないで、現在の國民の此大功績は、永く、子孫後繼に由つて保持せられる許りでなく、更に、之を基礎として、益々發展させねばならぬので、ござりますから、是に於

て、子孫後繼たるべき幼児の教養に向つては、ますます注意を拂はねばなりません。

本誌は、もとより微力ながらも、此點につきては、ますます現在及將來に向つて出来るだけ盡したいと考へますから、どうか、之迄と變らない御同情を賜はつて、お互に、國家のため、幼児保育のため働きたいと存じます。

年の始に當り、本誌第五歳に達したお祝に兼ねて、一言本誌の抱負を述べた次第であります。(牧羊

### 外國人の見たる日本幼児の海軍思想養成につきて

本誌の巻首に附けた口繪は、畏くも我が、皇后陛下が去る明治三十五年十月二十九日、女子高等師範學校に行啓せられた時の、御下賜金を以て、幼稚園幼児等のために、帝國軍艦朝日號の模型を購入し夫を幼児等に説明して居る所であります。之は宮内省に献上する爲めに撮影したのであります。所で、之について極めて趣味のある事があります。夫は、此寫眞が、何時の間にか佛蘭西に渡つたと見えて、佛國の雜誌に、「日本の幼稚生の海軍思想養成」といふ題目で、まことに見事に複製されて出たのであります。尚、全國のマタン新聞社の前に、同じく此寫眞が掲載せられて、彼國の一般人士の注意を引いたことは、目下巴利に在留せられる陸軍々樂長補永井健氏が讀賣新聞に出した左の記事で分ります。